その他 こんなことも・





車でタバコを吸いながら 子どもたちを送り迎え



ジュニアクラブチームの子どもたちを試合会場へ連れていくのに、 保護者の車だけでは足らず、コーチのFさんも自分の車を出すことに しました。「さあ、乗った、乗った」と後ろのシートに 2 人、助手席 に 1 人を座らせて、車を走らせました。

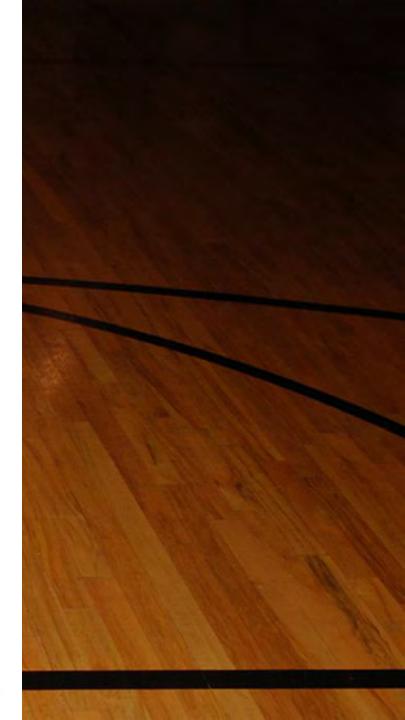
灰皿にはタバコの吸い殻があふれており、

「コーチの車、タバコくさ~い」

と、子どもたちは口々に言います。

信号で止まったとき、ヘビースモーカーのFさんは、無意識にウェアのポケットからタバコを取り出し、ライターで火をつけてうまそうに一服しました。煙が車内に漂います。

「ごほん、ごほん」。助手席の子どもが思わず咳き込みました。Fさんはあわてて窓を開けましたが、子どもたちはイヤそうな顔をしています。その後、子どもと保護者はFさんの車に「乗りたくない」「乗せたくない」と言っていると聞きました。





保護者も容認しているから、ゲンコツくらいはいいだろう



ジュニアのクラブチームでコーチを務めている I さんは、指導方法 に悩んでいました。以前は激しい言葉や体罰もいとわない厳しい指導 で、チームを強くしてきたつもりでしたが、一部の保護者に「体罰ではないか」と指摘され、どう指導すればよいかわからなくなったのです。迷いがあるためか、最近はチームの成績も思わしくありません。

見かねたほかの保護者の間から、「遠慮せずに子どもたちをビシビシ鍛えてほしい」という声が上がり、それを耳にしたIさんは、お墨付きをもらえたと従来の指導法に戻しました。

「コラー、おまえらちんたらプレーするんじゃない!」

練習場にIさんの怒声が響き、指示したことができないプレーヤーに対しては、「厳しくやってくれと言われたから」とゲンコツで頭をコツンと叩くこともあります。

気のせいか練習も引き締まった感じがして、Iさんは、「やっぱり これが正しいやり方なのだ」と思いました。





ほかのプレーヤーがいる中で、「今日は生理なのか?」と聞いた



小学生のスポーツチームで指導をしているKさんは、トレーニング中に顔色が悪い女子プレーヤーがいるのに気づきました。いつもは元気なプレーヤーだけに「どうしたのだろう」と考え、ふと「ひょっとして生理では?」と思い浮かびました。

これまでの指導経験から、小学校6年生であるそのプレーヤーなら、 生理が始まっていてもおかしくない年齢だからです。そうであれば、 無理をさせずに、トレーニングを休ませる必要があります。かといっ て、生理である確信はありません。本人に確かめるしかないと思った Kさんは、そのプレーヤーを自分の近くに呼んで、半分冗談めかして 聞きました。

「今日は生理なのか?」

周りには、男の子を含めて数人のプレーヤーがおり、聞こえたかも しれません。女子プレーヤーは否定も肯定もせず、うつむきました。 恥ずかしさのあまり顔が赤くなり、その目には涙が浮かんでいます。





寒空の中、「立って見ていろ」と 薄着のまま立たせた



Nさんは中学校の女子運動部の顧問を引き受けて、3年が経ちます。 厳しさと熱意ある指導で、チームを強くしてきました。その日も、い つものようにトレーニングをしていて、1人の部員の動きが気になり ました。

どこか覇気がなく、トレーニングに集中できていない様子です。いつもはもっと元気で前向きな部員だけに「どうしたのかしら?」と思いつつ、「〇〇さん、集中して!」と声をかけて励ましました。しかし、動きが鈍いままで、連係プレーでミスを繰り返すばかりです。

「これではチーム練習にならない」と判断したNさんは、その部員に「あなたはもう練習しなくていいから、立って見ていなさい!」とトレーニングをやめさせました。部員は「えっ」と驚いた表情をしたものの、うなだれてチームの輪からはずれ、チームメイトのプレーを見ています。汗をかいたまま着替えもせずに薄着で立っているため、寒そうです。これで反省してくれたら……とNさんは思っています。





キャプテンに部員を殴らせた



運動部顧問のTさんは部の管理・運営に関して、「もう高校生だから」とキャプテンを責任者として部員の自主性に任せています。指示が必要な場合も、キャプテンを通して部員に伝達していたのですが、地区大会を前にした大事な時期に、下級生の1人が部の決まり事を破って、チームの和を乱すような行為を働きました。

「大事な大会の前に部員たちの気を引き締める必要がある」と判断 したTさんは、キャプテンを呼んで厳しく叱責しました。

「おまえがしっかりしないから、こういうことが起きるんだ。二度と起こさないよう、おれに代わって殴ってでも本人にわからせろ!」

全部員を集めた場で、キャプテンは決まり事を破った下級生部員を前に立たせると、「チームに迷惑をかけて許されると思うのか! みんなに謝れ!」と言うや、平手で頬を殴りました。どこかつらそうな表情ですが、Tさんは「これでいいんだ」と腕を組んで満足そうにうなずいています。





ケガをしているのに、本人と 保護者の要望で試合に出場させた



地区のトーナメント大会を数日後に控え、高校で部活動の顧問をしているUさんに、頭の痛いアクシデントが起きました。久々に上位を狙えるメンバーがそろい、好成績を期待していたのですが、主力の部員が練習中に足首を捻挫したのです。

医師に診てもらったところ、「骨に異常はないので無理すれば試合に出られないことはないが、症状が悪化するし、その後のプレーヤー生活に影響が残る可能性が高い」という診断でした。本人は「ケガは平気です。試合に出してください」と言います。部員の保護者からも、「ぜひ出してやってほしい」と要望されました。

部員は将来を嘱望されており、大学でも同じ競技を続けたいと希望しているため、無理をさせたくないと思う一方で、久しぶりの上位進出のチャンスであり、勝つためにはその部員を出場させたい気持ちもあります。 Uさんは悩んだ末に、本人と保護者の強い意向を理由にして、部員を試合に出す決断を下しました。

U12カテゴリー「指導行動の指針」

JBA U12カテゴリー部会

U12カテゴリーから「暴言・暴力」を根絶し、子どもたちが「楽しく」ブレーできる環境をつくるため、指導者の皆さんには「指導行動の指針」として、つぎのことを意識して、指導に当たっていただきたいと思います。

<やってほしいこと>

- ・はげます
- ・元気づける
- ・委ねる
- 引きだす・導く
- 判断させる
- ・主体性を育てる



<やってほしくないこと>



・判断・支配

なにやってるんだ! 言った通りにやれ!

- ・怒る
- ・怒鳴りつける
- 指示ばかりする
- ・威圧する
- ・判断させない
- ・支配する

みなさんの指導は どうですか?

FIBA MINI BASKETBALL DOS AND DON'TS ワンポイントアドバイス



楽しみに焦点を当てる。

子どもたちは友人と一緒にスキルを学ぶために スポーツと関わり、そしてスポーツに対して興 味を深めます。

-- 用具を変える

プレーヤーの身体能力に合うための用具に変えてください。

尊敬を教える

レフェリーを尊敬し、どのような状況であって もスポーツマンシップに則りプレーすることを プレーヤーに教えてください。

規範となる行動はコーチから始めます!

異なった得点を設定する

異なる技術を強調するために得点の方法を変え、全てのプレーヤーが得点できる機会を与えてください。

---- ルールを教える ---

ミニバスケットボールのプレーヤーと保護者には、ゲームについて基本的なルール(考え方)について説明が必要です。ゲームでは「勝つ」ことではなく「楽しむ」「成功する」ことを求めます。そのためには、バスケットボールの技術をより一層高めることが重要となり、このことについて理解を深め、保護者は支援することで関わってください。

ルールを変える

全プレーヤーがゲームに関われる機会を最大に 与えるルールに変えてください。

コートやプレーヤー数を変える

1チームを3~4人に変えることで、各プレーヤーがボールを扱える機会を多く提供することができます。または、子どもにふさわしいコートサイズに変えてください。



-- 命じない -

子どもたちがプレーする方法を見つけ出すことができるように質問をしてください。

ゾーンディフェンスを 行わない

ゾーンディフェンスは14歳までするべきでは ありません。

バスケットボールだけを 行わない

発展的な技術(例えばパッシングゲーム、ドリブルゲーム)を習得するために、様々な楽しい活動を行ってください。

子どもたちが既に行っている遊びやゲームにバスケットボールの要素が発揮できるように工夫を加えてください。

勝つことだけの コーチングはしない

プレーヤーには平等な出場機会を与えてください。身長や能力に関係なく、ペリメーターやポストなど様々なポジションのプレーを学ぶことが大切です。

ファウルアウトを 適用しない

5ファウルとなってもプレーを続けさせてくだ さい。

--- 大人と同様に指導しない ---

子どもの身体的、精神的成長に適した指導を 行ってください。そして、子どもに適したゲー ムに変えてください。

育成センター (Development Center)

JBAが目指す育成センター

1. 将来有望な選手を育てるための仕組み

JBAは、世界に通用するバスケットボールのために「世界基準を日常に取り入れる」「世界を目指す環境」「世界を視野に入れた指導を日常から行う」という強化・育成方針を示しています。これに基づき、優秀な素質を持つプレーヤーや可能性の高いプレーヤーに定期的に良い育成環境(練習環境・指導環境)を提供し、「個」を大きく育てることを目的に Development Center (以下DC)を設置しています。

U12世代の特徴は、小学校1年生から6年生の子どもたちでチーム編成がされ活動をしています。これだけの幅広い年齢差では、発育発達の観点から体力的にも精神的にも大きな差があり、練習も各年代に応じた工夫が求められます。そこでDCにおいては、普及と育成の観点から優秀な素質を持つ子どもたちを招集して練習を行います。練習に参加する子どもたちの多くは小学6年生であり、またスキルの高いプレーヤーが集まることで向上心やライバル心などが芽生え、さらにスキルアップすることが期待されます。

一方で将来有望なプレーヤーを育てるためには、コーチを養成することも不可欠です。そこで、ブロックDCではJBAよりスキルコーチ、スポーツパフォーマンスコーチを派遣し、各都道府県の育成コーチを対象にクリニックが展開されています。そのクリニックに参加した育成コーチは、各都道府県において地区DC育成コーチに伝達することでコーチの資質向上に繋げています。また、ブロックDCでは保護者を対象にJBAの取り組み、発育発達の視点から子どもたちに対する理想的なサポートなどについてレクチャーを行います。このことからバスケットボールの理解を深めてもらい、バスケットボールファミリーの拡大を目指しています。

2. 発掘と育成

DCはブロック、都道府県、地区に設置されており、地区DCに参加した中から優秀なプレーヤーを選考し、そのプレーヤーは都道府県DCに参加します。さらに、都道府県DCに参加した中から優秀なプレーヤーを選考し、そのプレーヤーはブロックDCに参加します。このプロセスから子どもたちは、大きな目標を持つことで将来有望なプレーヤーとなってくれることを期待しています。

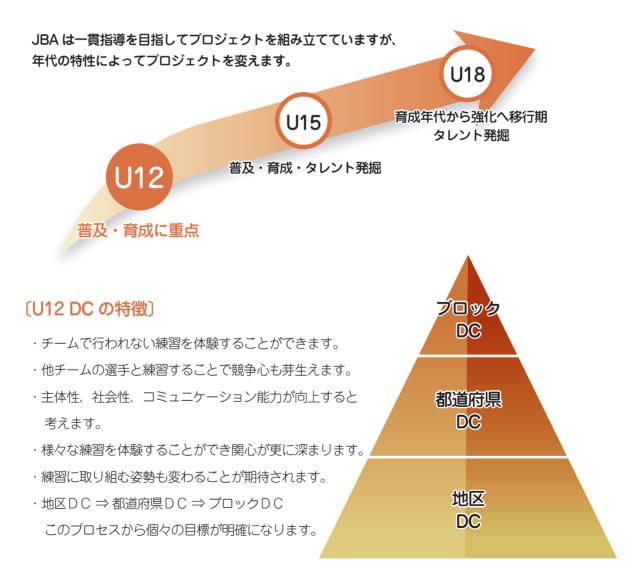
このような取り組みはU12カテゴリーだけでなく、U15、U18カテゴリーでも同様に行われていますが、各カテゴリーの特性を踏まえて目標が設定されます。U15、U18カテゴリーと年代が上がるにつれて強化が主眼とされますが、U12カテゴリーでは「普及」「育成」を目的としています。特に地区DCでは、多くの子どもたちにチャンスを与える工夫が求められます。

また、U12カテゴリーでのプレーヤー選考は個々の発育や発達の状況に大きな差があり、現状の発育状況だけでなく、バスケットボールスキルやIQを含めた将来性を見極めながら選考を行います。 そのため、プレーヤー選考を担当するDC育成コーチはプレーヤーを公平に見極める力が必要であり、様々な知識や観点などについて情報交換や日々の研鑽に努めなければなりません。

3. 育成マインドの伝達

U12世代では、子どもたちが「心からバスケットボールが楽しい」と実感させることが重要です。 スポーツは勝つことから「楽しさ」「達成感」などを学び成長も見られますが、「子ども」の意思や思 考が含まれない「勝ち方」を指導する勝利至上主義では、子どもたちに本当の意味でのバスケットボー ルの楽しさを伝えることができません。この年代では、子どもたちの将来を見据えた指導が求めら れます。 そのため、コーチは「個の育成の重視」すなわち「育成マインド」を持ち指導に携わることが不可欠とされます。

YOUTH DEVELOPMENT CENTER



U12世代において地区DCは、普及を目的に行います。 そしてDCでは、「個」の力を伸ばすことを狙いとして取り組みます。











相手を「伸ばしてる」? 相手が「楽しい」? 相手が「やる気になった」?

自分に問いたい

自分に問い続けたい

〇今の言葉(言動)は

児童(相手)が「やる気になった」? 児童(相手)を「伸ばしてる」? 児童(相手)が「楽しい」? 何割の児童(相手)が?

〇自分の(深層)心理と児童(相手)の心と どちらが優先になってた?

〇児童(相手)はどう受け取った?